

2期 5歳児

実践① 研究保育（6月29日とその前後）

誕生会の準備で個人で輪つなぎを製作することを経験した。自分の輪つなぎができたことを喜び、すだれのようにまっすぐおろして遊戯室に飾ることを楽しんでた。後日、「ななはけラボ」に遊びに行くと、小学生の作った図工「チョッキン パッドかざろう」の吊るし飾りがゆらゆら。そのあと授業中の1年1組の教室を覗きに行くと、背面に長い輪つなぎの飾りがあった。小学生の作品を見たり、七夕が近いことを知ったりして、季節の行事に関心を持ち、自分たちも七夕飾りを製作したいという気持ちが高まった。

荒川自然公園から笹が届くことを知り、グループ（係活動などを行う際の、教師が意図的に設定した小集団）の友達と一緒に輪つなぎを製作した。幼児の「いるか組みんなの輪つなぎをつなげてみたい」という言葉から、遊戯室の横幅いっぱいの長さの輪つなぎができあがった。長くつなげることの面白さを味わった子どもたちは、翌日以降も輪つなぎを伸ばしていくことを楽しみ、階段や廊下も使って遊びを発展させていった。



一人でつなげることを楽しむ。



小学生の飾り、ゆらゆらしてすてき。
「自分たちも作ってみたいな！」

コーヒーフィルターの着物を着た織姫と彦星。「冠はどんな形にしようかな。」



みんなで力を合わせたら、
とっても長くなった！



<○成果 △課題>

○5歳児と小学生の活動が相互に関連し合っ、活動や学びが広がっていった。

○思いを言葉にして出し合ったり、友達同士で声を掛け合いながら活動を進めたり、達成感を味わったりして遊びを広げていこうとする様子が見られた。

○研究保育の製作の場面では、友達の動きを見てそれを受けて自分なりに考えて動くなど、言葉だけではない友達との関わりややり取りも多く見られた。他者との関わりには様々な形があり、多様な経験が言語化した言葉でのやり取りにもつながっていくことを小学校教員・幼稚園教員で共有することができた。

△輪つなぎの製作では、長さだけではなく、色の組み合わせや美しさなどいろいろなことに心を動かす幼児の姿があった。様々な興味や関心を受け止めて広げていくことができるような環境構成や援助を今後も考えていく必要がある。

実践②「ななはけミッションツアー」の参加（6月14日とその後）

1期に5年生と交流をしたことで、幼児はまた5年生と一緒に活動できることを楽しみにしていた。特別活動行事である「ななはけミッションツアー」で5年生が行なった遊びを楽しむ交流会に招待してもらった。担任同士で事前に打ち合わせをし、活動の流れやねらいを共有した。

当日は的当て、クイズの遊びに参加した。的当てでは、分かりやすくルールを小学生から教えてもらい楽しん

でボールを投げていた。途中で5年生にボールの投げ方を見せてもらい、迫力のある投げ方に刺激を受けていた。「もう一度やってみる。」と、5年生のまねをして力強く投げている幼児の姿もあった。幼稚園に戻ってから、もう一度同じ遊びをしたいと、的を作ろうとしていた。小学生が作っていたものと同じような段ボールの板を材料として提示すると、自分たちなりにたくさんの数字を書いていた。数字が書き込まれた的が完成するといろいろな幼児がやってきて、的当てを楽しんでいた。

クイズでは、初めは5年生からの発問が難しく、答えに戸惑っている幼児が多かった。それに気付いた5年生は「次はもっと簡単な問題にします。」と言い、「○と×」から選択肢を選んで答えられる問題にしたり、ヒントを出したりするなどしていた。実際に幼児と関わることで実態から5年生なりに関わり方を考えようとする姿が見られた。

幼稚園への帰り道、校庭で写生をしていた6年生の様子に興味をもった幼児が声を掛けると、「僕たちは今年で卒業だから忘れないように学校の絵を描いているんだ。」と答える児童の姿があった。1期からの活動の積み重ねで、幼児にとって小学校への安心感や、小学生への親しみの気持ちが膨らんでいることが感じられた。

5年生の作った的当てのゲームに挑戦。

「おもしろいな。」



「幼稚園でも、もう一度的当てをやってみたいな。」「的を作ろう！」



たくさん数字を書いた自分たちの的ができ、楽しんで遊んでいた。

「6年生のお兄さんお姉さん、何をしているの？」自然と小学生との関わりが生まれた。

<○成果 △課題>

○1期から計画的に交流を重ねていることで、幼児は5年生と関わることを楽しみにし、安心感をもって参加していた。6年生とのやり取りからは、他学年の小学生にも親しみの気持ちが広がっていることが感じられた。

○5年生にとって、実際に幼児と関わることで気付くことが多くあり、自分たちなりに関わり方を考えたり、実際にやってみたりする経験をすることにつながった。

△事前に担任同士で打ち合わせの時間をもったが、時間の確保が課題である。限られた時間の中でも要点を押さえた話合いができるよう、活動のねらいを明確にして打ち合わせを行う必要がある。

△今後は小学校の昼休みの時間を活用した関わりなど、日常的な交流につなげていく工夫を考えていきたい。

2期 1年生

実践 研究授業 算数「かたちあそび」ほか（6月第2週～7月第1週頃）

「かたちあそび」は身の回りにあるものの形について、その概形や特徴、機能を捉え、遊びに生かすことをねらいとした4時間扱いの小単元である。この学習活動を中心に、各教科の形に関連する活動を整理し、身の回りにあるものの形の特徴やそれらを生かした遊びに関心をもてるように関連的な学習を計画し、実践を行った。

1年生担任は相互参観で5歳児の七夕に関連する壁面掲示を制作する活動を参観した際の5歳児担任の声掛けや準備物（「四角とか三角に切ってみる?」、扇形のコーヒーマグ、長方形の折り紙など）を見て、子どもたちの生活の様々な場面で形に着目できる場面があることを改めて実感した。それをきっかけに子どもたちが生活の中で様々な形に親しめるよう、教室・廊下・「ななはけラボ」等の環境設定を工夫した。



織姫と彦星を作る5歳児。扇形の胴体と丸い顔に、四角い折り紙をそれぞれが思い思いの形に切った飾りをつける。本、材料の形、教師の援助の声掛けなどに、さりげなく形の特徴があった。

教室前の廊下には、形に関連する本や積み木、マグブロックを置いた。学校司書と連携し、形が題材の紙芝居を読んだり、公共図書館から借りた本を「ななはけラボ」に展示したりした。（6月末～7月）



図工「チョッキン パでかざろう」
折り紙を折ったり切ったり貼り合わせたりして、ゆらゆら揺れる飾りを作った。（6月10日頃）



廊下掲示「うみのいきもの しんしゅ はっけん！」
未発見の生き物がいるとしたら、それはどんな形かな。丸?三角?四角?

算数「かたちあそび」全4時間



たくさん集めた箱、箱、箱！



「どのくらい高く積めるかな」
「タワーを作りたいな」
「ランチルームじゃ狭いね」



体育館でも箱、箱、箱！



お城にタワーにカブトムシ。友達と話合いながら作ったり、一人で活動に没頭したり。それぞれが思い思いに箱積み遊びに熱中。



それぞれの作品を見ながら気付いたことや工夫したことを共有したり、教師が形に関する発言や工夫を価値付けたりした。



カブトムシ



飛行機。排気口や車輪を筒の形で表現。



お城。高くどっしり積むために似ている形を集めた。



似ている形の仲間を集めて分類してみる。

形を写し取って絵を描いて遊ぶ。



<○成果 △課題>

○身近なものの形にじっくりと関わる時間をもつことができた。

○児童が楽しく遊んだ「かたちあそび」の様々な活動から、教師が形の概形や特徴、機能についての気付きや児童の発言を価値付けることで、算数科のねらいに迫ることができた。

○教室、ランチルーム、「ななはけラボ」、体育館など、活動の目的や内容に応じて様々な場を活用することで活動がやすく、各時間のねらいに迫ることができた。

△本来は2学期に行う「かたちあそび」の単元を「どちらがながい」と入れ替えたため、直接比較や間接比較の概念を共通理解していなかった。そのため、似ている形を分類する活動で子どもたちの経験の差が見られた。

2期 2年生

実践① 生活「めざせ 野さい作り 名人」ほか（1期からの継続）

春植えの夏野菜の育て方について「ななはけラボ」で調べ、自分が選んだ野菜（ミニトマト、キュウリ、ピーマン、ナス、エダマメ、オクラ）の栽培活動を継続して行った。水やりや追肥などを行いながら丁寧に育てたが、6月の猛烈な暑さにより生育状況がよくなかった。昨年度の経験から、背が高くなった植物には支柱を立てたり、摘心をしたりした。それぞれの選択した植物について、国語「かんさつ名人になろう」でメモを基に友達と話し、観察記録文を書く活動を行った。



個人の鉢植えて栽培すると同時に、畑を耕して畝を作り、学年の野菜畑を作った。例年は秋にも畑で「荒木田大根」を栽培。



観察したことを絵や短い言葉でメモする。今回も窓越しに1年生に「観察カードの書き方」をレクチャーする様子が見られた。



少しずつ大きくなったり色づいてきたりする野菜をじっくり観察。猛暑を乗り越えて実った野菜を収穫した時の喜びはひとしお。

<○成果 △課題>

○前年度の共通の栽培経験を生かして、それぞれの選択した野菜の世話をすることができた。

△昨年度の共通教材であるアサガオよりも栽培の難易度が上がり、摘心や追肥、支柱立てや水やりの量などが植物によって異なるので、丁寧に育てられる児童とそうでない児童がいた。植物により親しみや関心をもって働き掛けることができるような工夫を加えたい。

実践② 生活「まちが 大すき たんけんたい」（6月第2週～7月）

昨年度は校内で「学校探検マップ」や「ビオトープマップ」の制作活動を行った経験がある。学校の周りから自分たちの住む「まち」へと探検のフィールドを広げるにあたって、マップ作りの取組を行おうという発言があった。今回の経験を基に3・4期にさらに詳しく地域の施設やそこで働く人々の様子について調べ学習を行う。また、それらは3年生以降の社会科（区内巡りや働く人々の思いや願いを学ぶ等）につながっていく。



「ななはけラボ」で町探検マップを作る



今回は公共施設を中心に探検



<○成果 △課題>

○前年度のビオトープマップや学校探検マップの制作経験が、情報を整理したり共有したりするためのツールとしての地図の活用を促した。（3期までの帯単元）

△コロナ禍で地域の店舗や公共施設の見学や交流の機会をもつことが難しい。オンラインでの交流やビデオメッセージ、手紙による交流など、地域交流の方法を増やしたい。